

福岡病院での診療情報を下記の研究に用いることになりましたのでお知らせします。

記

1. 研究代表者	心療内科医師 雨宮 光男
2. 研究課題名	慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の経過に影響を与える因子についての研究
3. 研究の概要	COPDの国内の最新の治療指針(2022年発刊 COPD診断と治療のためのガイドライン)では、COPDの経過に影響を与えるものに、年齢、性別、喫煙、呼吸困難の程度、呼吸機能検査、低酸素血症、身体活動性、全身併存症が報告されています。併存症には心血管疾患や肺がん、高血圧、糖尿病以外に、不安や抑うつなどの精神的な要素が関与しているとも言われています。上記の要素が、COPDで治療を続けているうちに急に症状が悪化し、呼吸困難で緊急入院・外来受診をきたす、いわゆる急性増悪の頻度に影響を与える可能性があります。また、急性増悪が、更なる呼吸機能の悪化や身体活動度の低下、精神的な要素の悪化など、患者さんのその後の経過に悪影響をもたらすこととなります。これまでの研究や臨床経験から、前述した様々な要素への早期介入が、患者さんの疾患経過やQOLの改善に寄与することがわかってきました。この度の研究で、より患者さんのニーズに沿った医療を提供できるようになることを目的として、COPDの急性増悪による入院や外来受診、生命にかかわる病態に、どの要素が特に強くかかわっているかについて調査をします。研究への参加にご同意頂きましたら、過去に行った身体的評価のための検査結果のデータや、お答えいただいた症状、ストレス、QOL等についてのアンケートの結果を研究に使わせていただきます。これらと診療におけるデータ(症状悪化による入院や外来通院など)を比較し、COPDの背景にある身体的および心理的要素と治療経過の関係を調べます。
(個人情報利用の目的)	研究期間(データ収集期間)2023年9月25日より3年間
4. 使用する診療情報	診療情報内容:呼吸機能・血液検査、活動度、心理検査など 対象診療期間 2014年6月19日以降
5. 使用する検体	なし
6. 病名	慢性閉塞性肺疾患(COPD)

① この研究の科学的妥当性と倫理性は、当院の倫理審査委員会等において厳重に審査され、承認されています。また、調査項目は既存のデータであり、何らかの負担を生じることはありません。

② 具体的な研究内容を知りたい、あるいは、今回の研究に用いることを拒否したい場合には下記の問い合わせ窓口までご連絡下さい。

☆お問い合わせ☆

国立病院機構福岡病院管理課
管理課長

住所 : 〒811-1394 福岡市南区屋形原4丁目39-1

電話:092-565-5534

FAX:092-566-0702

(お問い合わせは、なるべく、FAX又は郵送でお願いいたします。)